



発行 全国治水期成同盟会連合会

東京都千代田区平河町2-7-5 (砂防会館内)
電話 03(3222)6663 FAX 03(3222)6664
H P <http://www.zensuien.org/>
E m a i l zensuien@k2.dion.ne.jp

編集・発行人 下 川 順

被災地からの被災状況の報告



女川港

目 次

顔が見え 声が届く Meet your smile Touch your heart.....宮城県美里町長 佐々木功悦... 2 ～私たち美里の経営理念です～	
全水連便り.....	9

顔が見え 声が届く

Meet your smile Touch your heart

～私たち美里の経営理念です～

宮城県美里町長 佐々木功悦

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震とそれに伴って発生した大津波、その後の余震により引き起こされた大規模災害は、日本観測史上最大となる M9.0、最大震度 7 を記録するまさに未曾有の災害となった。

止まらぬゆれは、電気、水道、ガスなどライフラインを寸断し、港湾、空港、鉄道、道路などの輸送網を破壊し、被災地を孤立させた。

暗闇に立ち昇る炎に冷たい雪が舞う。被災状況が明らかになるにつれ、その惨状に言葉を失った。津波により町が流出した沿岸部のみならず、内陸部も含め個人住宅の被災はもとより、復旧の拠点となるべき公共施設にも大きな被害が発生していることも明らかになった。更に瓦礫の山と化した被災地に、白煙を上げる原発が見えない恐怖となって襲い掛かる。

一方、河川の決壊、沈下、液状化などは 800 箇所及び、二次災害が懸念される中、関係者のご努力により急ピッチに工事が進められ、治水機能を回復しつつある。

被災地では今、生きる希望というものを求めている。1 万 5 千を超える死者。9 千を超える行方不明者。震災をかいくぐった大切な命が避難生活の中で失われてはならないと強く感じる。

復興に向け、東北いや日本が一つとなってこの危機を乗り越えなければならない。

■ 3・11 東北地方太平洋沖地震発生

(宮城県美里町)

3 月 11 日・金曜日・午後 2 時 46 分、予想だにしない激震に町はその機能を失った。

停電、断水、繰り返し襲ってくる大きな余震。あまりに突然の被災に町民は震えながらも、状況の把握そして家族の安否を必死の思いで探っていた。夜の暗闇は、その恐怖をさらにどん底へと突き落とす。例年に比べて寒さが厳しかった今年の冬。3 月を迎えても小雪の舞う夜空に、心も体も凍てつくような時間が過ぎた。

家屋の倒壊、道路や橋の破損、交通網の遮断、停電、

断水。小さな町の避難所には行き場を失った多くの人が身を寄せ合った。

情報の乏しい中、他市町村の被災の状況が明らかになるにつれ、沿岸部を襲った大津波の被害や被災地の範囲がこれまでにない程広範囲であることに言葉を失った。

町内全域に電気の通電が戻ったのは、震災から 9 日間が過ぎた 3 月 20 日だった。それまでの間、蝋燭やランタンの小さな灯りの下に家族が集まり、石油ストーブや毛布に包まって暖をとった。水道通水は漏水対応に追われて半月を費やした後の 4 月 1 日であった。給水所では連日、やかんやペットボトル、ポリタンクを持った人の列が続き、またガソリンがなかなか手に入らず、給油を待って何時間も車が並ぶ状況もしばらくの間解消されなかった。スーパーや商店等も営業再開できず、食料や生活用品の入手も困難を極めた。これまでのなんの不自由ない生活に、改めて感謝の念を抱かずにはいられない日々だった。

そのような過酷な状況下でも、職員はもとより、地元の企業や商店、ボランティアそして多くの町民が復興を信じて前向きな歩みを決して止めなかった。

不眠不休の震災対応は、強い団結力をも生み出し、私を前へ前へと突き動かした。

■東日本大震災の復旧・復興に関して喫緊要望

(宮城県町村会長)

東北地方太平洋沖地震の発生は未曾有の津波被害と、さらには福島原子力発電所災害をももたらした。今回の被災は県や市町村で対応できる限界を超えており、国や関係機関の、迅速な復旧・復興への全面的関与が不可欠である。

3 月 30 日民主党・総務部門会議が開かれ、震災の復旧・復興に関する特別立法に関する検討にあたり、関係団体に対するヒアリングが行われた。

全国町村会からの要請があり、新幹線も動かない、空港も閉鎖された状況の中、ガソリンの供給がままならない不安を抱えながら、会議前日の夜、公用車で宮城から東京までひた走った。

会議では被災町村の実情を踏まえ、全国町村会の理事・宮城県町村会長としての立場で、国が自治体と連携してきめ細やかで迅速な対応を行うよう強く要望した。

当日の発言要旨の一部を抜粋し下記に書す。

3 月 30 日 民主党総務部門会議

全国町村会理事・宮城県町村会長佐々木功悦発言要旨より

(前段略)

ご承知のように東北地方太平洋沖地震は、本県において震度 7 を記録するなど、まさに過去最大の規模となる傷跡を各地に残し、多数の死者が出たほか、停電・断水などのライフラインの寸断や公共交通機関の不通など、住民に甚大な影響を及ぼした。

被災状況が判明するにつれ、津波により町が流出した沿岸部のみならず、内陸部も含め個人住宅の被災はもとより復旧の拠点となるべき公共施設にも大きな被害が発生していることも明らかになった。

死者が 1 万人を超え、死者を超える多数の行方不明者が出ており、被害の全容解明すらできない状況である。がれきの山と化した被災地の惨状に言葉もない。

南三陸地域の被害が最も甚大であり、南三陸町、女川町などは町の 7 割～8 割が壊滅状態であり、町が消滅したと言っても過言ではない。町の中に今なお海水が入り込んでおり、油まみれになり、死亡者の臭い、犬や猫など動物の死骸、崩れ落ちた家々のがれきの山、こういった惨状が広がっている。南三陸町に、4、5 階建ての鉄骨の建物が 1 棟ぽつりと残っていた。17、8m はあろうかというその屋上に、車 1 台がぶら下がっている状況も目の当たりにした。ものすごい臭いで、とても人が住める環境ではない。

こうした中、多くの地域で物資や燃料が不足し、事態はやや改善してきたものの、依然として高齢者や妊婦などの緊急性の高い被災者の生活が脅かされている。被災地では大勢の人が避難生活を強いられ、寒さ厳しい中、3 週間目に入っている。地震・津波の被害をかいくぐった大切な命が避難生活の中で失われてはならないと強く感じている。

被災地では今、生きる希望というものを求めている。被災状況に対し国は被災した自治体と連携のもと、総ぐるみで復旧に取り組むことはもとより、きめ細やかで迅速な対応を行うことを強く要望する。

申し上げたように、海沿いの市町村の中には、津波と地震によってほとんどが破壊され、もはや自治能力を失ってしまった自治体もあり、国が全面的に関与しなければ立ち上がることのできない状況にある。菅政権は復興政策を一元管理する復興庁の設置を盛込んだ

基本法や特別立法を検討されており、国が復興復旧に全面関与することを打出したことは極めて適切な判断であり、必ず実現していただきたいと願っている。

宮城県町村会としてとりまとめた緊急要望書を提出させていただいた。特に震災の復興復旧に関する特別立法の制定にあたり、補助対象事業費の範囲の拡大を是非ともお願いしたい。現行制度では災害復旧事業費の補助対象とならない施設についても特別措置により補助対象としていただきたい。資料には宮城県内 35 の自治体からの強い要望をあげさせていただいている。

阪神・淡路大震災時の特別措置の適用と、恒久措置のかさ上げ、そして今回の被害が甚大なものであることにより、事務量が質的にも量的にも膨大なものとなることから、特別措置により、事務手続きに係る負担を可能な限り低減することを是非ともお願いする。

(中段略)

美里町の隣、人口 3 万 4、5 千人の東松島市では、家を失った人が 8 千人以上いる。現在、避難所で 1 人 1 坪もないような中で、まさにぎゅうぎゅう詰めの生活を送られている。隣町の私どもも、いくらインフラ整備が行われたので、4 月 1 日から約 7 百名の方々の受入れを行うこととなった。しかし、この先が見えない状況である。このことに関し、特にお願いしておきたいのは、応急仮設住宅の十分な確保と早期建設である。そして、その供与期間の延長もお願いする。

大変な惨状である。ここにおられる国会議員の先生方にも早急に是非とも現地を訪問していただき、状況を見たくて対応をお願いしたい。

この会議から戻り、1 週間後の 4 月 7 日に県内最大震度 6 強の大きな余震に見舞われた。3・11 の地震被災によってもろくなった地盤や家屋等に、さらなるダメージが加せられ、被害が拡大した。

しかし、私たちは決して負けない。

震災から 2 ヶ月が経過し、今なお被災の苦しみや悲しみに打ちひしがれる状況と隣り合わせの日々を過ごしているが、それでも、私たちは決して負けはしない。

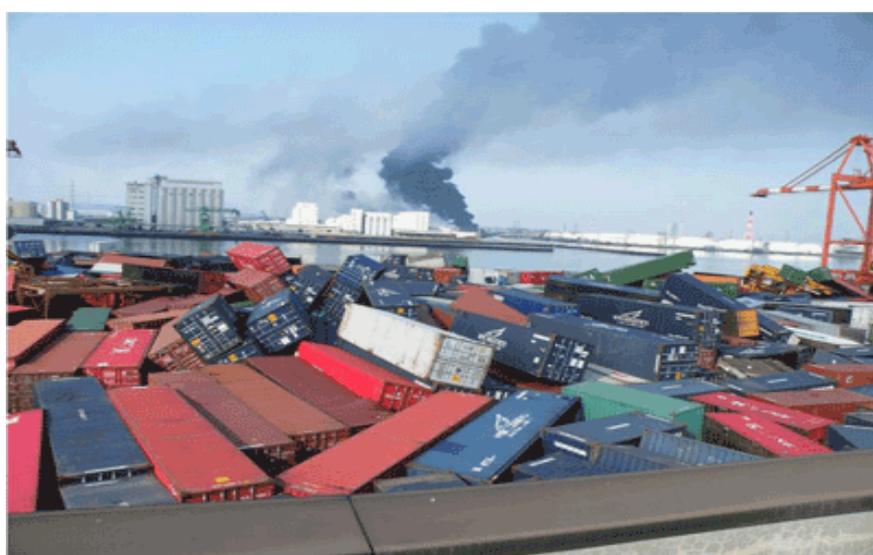
東北人は我慢強いとよく言われる。それならばその言葉どおり踏ん張っていこうと思う。ふるさとの再建を心に誓い、熱き心を燃やして。

全国の皆様には、復興に向けた温かいご支援をたくさんいただいた。

この場をお借りして、心から感謝と御礼を申し上げます。



仙台空港被災状況



仙台塩釜港仙台港区 高砂コンテナターミナル被災状況



女川町役場庁舎



女川町商店街



住宅のほとんどが基礎だけ残し流出



砂押川（多賀城市八幡付近）堤防破堤状況



伊里前川南三陸町歌津付近被災状況



野蒜の駅前通りの住宅。自動車や瓦礫が1階に流入



追川（登米市追町森付近）堤防沈下状況



追川（若柳地区）堤防亀裂状況



南三陸津波



南三陸町防災対策庁舎



東松島



東松島 2



大きくねじ曲げられた線路（東名駅）

<全水連便り>



今回は、当連合会の佐々木監事（宮城県・美里町長）に寄稿をして頂きました。
先日会計監査をして頂きました際に、佐々木町長が大変お忙しくご活動されている現況をお聞きし、是非寄稿して頂きたいとお願い申し上げたところです。
東日本大震災の被災地である宮城県内の、現在の被災状況を写真で紹介させて頂きました。
佐々木町長は宮城県町村会会長として政府に緊急要望をされたり、毎日大変お忙しいにもかかわらず、被災状況を収集された貴重な写真を多数お寄せ頂き、会員の皆様に紹介することが出来ました。
美里町をはじめ、被災された会員の皆様方に心からお見舞い申し上げます。一日も早く復興されることをお祈りし、応援して参りたいと思います。
会員の皆様からは身近なニュースなど、積極的に寄稿を頂けましたら幸いです。

